

## 『新林町まちづくりまつり』開催について

市民版まちづくり計画に定められたテーマの内『2-1 住民の手でまちづくりを進める知立づくり』に当たります。新林町は町内会活動が盛んな地区と聞いている通り、今回の「まちづくりまつり」では区長様をはじめ、多くの地域の方々に多大なご協力を頂きました。今回の「まちづくりまつり」の成果は「繋ぐ」だと思います。

### ①人と人を繋ぐ

マルシェでは地域の方がつくった野菜や作品がお客様の手に渡ることによって人と人との交流が生まれました。「まちづくりまつり」はコロナ禍で停滞していた地域住民の交流の機会になりました。

### ②情報を人へ繋ぐ

地域防災会や福祉協議会の地域にとって有益な情報を町内会の皆さんに共有することができました。野良猫の保護活動には賛同する方が多く、またこのような活動をしている団体があることを初めて知る人も多かったようです。

### ③気持ちを繋ぐ

ご年配の方でステージイベントのeスポーツに関心がある人がいらっしゃいました。その方はeスポーツを聞いた事はあっても実際に見て体験するのは初めてで、今後町内会の子ども向けイベントでもやってみたいととても興味を示されました。『まちづくりまつり』でやった事が、更に新しい町内会活動につながるきっかけになると良いと思います。

## 今後のまちづくり委員会についての提案

ボランティア活動の一番の難点は、人材の確保と資金調達だと思います。

ボランティア活動の経験と実績があり、自らが自立して実行できる人にとっては「まちづくり委員会」に参加するメリットはほとんど無く、市へ会合の日程や議事録を逐一報告する手間が加わる分、大きな負担となります。

ボランティアの経験が無く、知識も人脈も待たない者にとっては、企画を一から立ち上げ実行し、成果を出すのは至極困難です。人材確保と資金調達の難しさから途中で挫折するか、無難にできる範囲での研究内容に留めるかもしれません。そしてボランティアの難しさだけを学んで終わってしまい、次回からの参加は考えなくなるかもしれません。

市の『協働によるまちづくり』という言葉の『協働』の意味が分かりづらいのだと思います。まちづくり委員会は「市民主体の自主研究組織」として企画運営・資金調達・人材集め等全てまちづくり委員が担うことは市からの説明の通りなのですが、「協働して」という言葉が、どこかで市と共に働き、汗をかき、成果を共有するということを期待してしまうのです。会合の日時を委員会メンバーにメール配信したり、議事録をホームページに公開したりということは『協働』とは言えません。

市民活動の経験豊富な人材の参加、新たな担い手の育成、資金調達のために、市がある程度助言し関わることは、まちづくり委員会の活動を緩めるものではなく、むしろ活性化するものだと思います。市の前向きな姿勢を見て委員会参加者は更に『協働』の意識を高めるのです。今のままでは『知立市まちづくり基本条例』の本来の目的や市民の意識がうまくかみ合わず、かなり残念でもったいない状況に陥っていると思います。

今年度のまちづくり委員会の活動が「まちづくりまつり」として結実させたのは、ひとえに伊藤孔二氏と楠憲子氏による尽力によるところが大きいです。お二人の長らく地元へ貢献してきた経験と豊富な人脈が最大限に生かされたかたちです。

まちづくり委員会の中に豊富なボランティア知識と経験、人脈を持ち、リーダーシップを発揮できる人物が居ることは大きいです。また、こうした人が参加しているかどうかはその年度の運みたいなところもあります。途中で委員長を引き継いだ杉山巧氏は今回の活動を通して大きく成長しました。『まちづくり委員会』は若い方が実践を通して市民活動を学ぶことのできるよい機会でもあります。

『市民の手でできる知立市のまちづくり』という目的は大変素晴らしいものです。規模が小さく財政の厳しい知立市にとって、さまざまな市民が「まちづくり」に参加することは大きな力になりえると思います。参加する市民はそれぞれの立場や経験から様々な知識や人脈を持っており、これを活かさない手はありません。ただ、市民にやってもらうのを待って、黙って見ているだけでは状況は平行線のままです。市民に「協働して」まちづくりを呼びかけるのであれば、市はもっと頑張らしましょう。

令和3年度まちづくり委員 阪野嘉子